

照見五蘊皆空



平成31年4月

「照見五蘊皆空」(しょうげんごうんかいくう)とは、般若心経の一説です。

先月の寺報にてお伝えしました通り、観音菩薩が「深い智慧の実践の状態を行(修行)する時」、五蘊は全て空であるという意図で説かれています。

「照」とは「照らす、明らか」という意味ですが、「照合(書類など照らし合わせること)」や「対象(他の物と照らし合わせること)」と言ったように、他者との物事の関係性を比較し明らかにするという意味合いが多くあります。

また「見」という字は、ただ見ることに以上に見るという行為をもって、相手と内面的な交渉を持つ、つまり見たものが



西讚寺 恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

どのように動いているとか、どのような意思を持っているのかを考える行為でもあります。つまり、「照見」とは、「物事の因果や働き、その関係性を明らかにする」という意味合いを持ちます。

そのようにして観音菩薩は何を照見されたかと言いますと、「五蘊(ごうん)」というのが全て空(くう)である」と明らかにされるのです。

では、「五蘊(ごうん)」とは何でしょうか。

五蘊とは

一、「色」 しき

人間の肉体や物質。

二、「受」 じゆ

苦楽などの感受作用。

三、「想」 そう

赤い花や白い靴といった

ような概念

四、「行」 ぎよう

物事に善悪や好き嫌いなどの意識を付けること。

五、「識」 しき

物事を認識すること。

の五種類の作用の集まりを言います。

この世の全てはこの五種類の集まりで作られていると言われています。

つまり、私たち人間が感じたり捉えたりする、この世の全ての物もこの五種類の集合体であります。

私たち人間は、皆で同じ物を見ています。見ています。見ています。見ています。

例えば「赤信号」ひとつを例にとってみても、人によっては「赤い灯り」でしょうし、人によっては「止まれる合図」

道を急いでいる人にとって「好ましくない物」。

現在とは違う時代の人や、海

外の人にとっては、信号という認識すら持っていない人もいることでしょう。

そして、信号機だけに関わらず、すべての物や人も、同じように違った見られ方をされています。

しかし、人は皆それぞれ違ったものを見ては、自分の都合にあわせて、怒ったり悲しんだり、喜んだりしては、心が動揺し、執着をしていますが。

そして、このことこそ私たちが感じている苦しみの、根本的な原因であると言われるています。

もし、それが原因で私たちの貴重な人生に、苦しむ時間が多くなってしまいううでしたら、大変もつたいないことではないでしょうか。

虚空蔵十三参り

四月十三日(土)

虚空蔵谷に於いて。